

中田かわら版 4月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ



石斧を説明する西江さん

■この人に会いたい< 57 >

趣味はヒコーキと古代史

西江写真館 西江 健二さん (79) 葛野自治会

葛野小学校前の西江写真館と言えば地元では名が知れたスタジオである。昭和 49 年に現在の地に引っ越ししてきた。その翌年、葛野小学校が開校した。何が幸いするか分からない。学校の誘致、開校に関わった森（春義）、望月（榮）、小糸（信義）さんらの紹介で学校関係の写真を担当することになる。西江さんにとって、開業 2～3 年の間もないころである。学校は年間を通して入学・卒業、運動会、修学旅行など行事が組まれており、仕事は安定的。2 年後には汲沢中学校も開校し、ここでも写真を担当することになった。その縁で、学校の広報委員長や P T A 会長などを歴任、さらに自治会長にもなった。

西江さんは福岡は博多で育ち、写真は高校生のころから興味があったという。高校を卒業して上京、憧れのカメラ会社「(株) リコー」に就職。働きながら日吉の「東京総合写真学校」に通う。しかし「自分が考えていたスキルを磨く勉強の場とは違う」と、ここを辞めて独学に精進する。いろいろ努力の末、独立しスタジオを持つことができた。西江さんは飛行機（戦闘機）と歴史、とりわけ縄文文化や邪馬台国・倭女王卑弥呼については造詣は深い。縄文と関連して考古学にも長じている。土地や地形を見るだけで、土器など遺跡が埋没しているのが、おおよそ分かるという。例えば今は大きなビルが建っているが、あの下にはかつて遺跡があったところと睨んでいる。10 年ほど前、ある畑を掘っていて高さ 40 センチほどのほぼ完全なツボを発掘。自分の推理が正しかったことが嬉しかった。

この二つの趣味は博多という土地柄と大いに関係があると西江さんは言う。律令時代には太宰府の外港として大陸との交通の要所であり、室町、江戸時代は商業都市地として栄えた。景勝地や元寇の遺跡も多い。子供のころから菅原道真や寺院仏閣に接し、興味を持つようになった。板付空港も自転車で行ける距離だったので、飛行機の写真をよく撮りに行った。今までに撮り続けた戦闘機は約 400 枚。飛行機の本場アメリカにも 5 回も行っている。世界一の「宇宙航空博物館」も見てきた。2017 年には「航空機写真集第 1 集」を出版、現在 3 集目を準備中だ。好きな機種は F100、B17 と「MUSTANG p-51」。



ヒコーキの写真を見る西江さん（右）

〔縄文〕「邪馬台国」の話になると一層熱が入る。約 1 万 3 千年前、縄文時代は 1 万年続いた世界に類がない大きな集落だった。竪穴住居に住み弓矢や銛でシカやイノシシを狩猟。ドングリや木の実をすり潰して調理をしていた。西江さんは女王卑弥呼は存在しないと断言する。証拠になる「文書や史跡が全くない」ことを挙げる。したがって『魏志倭人伝』は嘘であるという結論だ。最後に西江さんの助言は「昔の文化を皆が認識すること。中田の失われつつある史跡や民具などを保存していくことが大事です」。

(編集委員 宮田貞夫)

～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

■中田の歴史記念物<9>

ちゅうでんじ
「中田寺」今と昔

現在の中田寺を継いでいるのは第二十世香川隆真氏である。平成21年4月1日、「晋山しんざんご挨拶」の中で「齢二十八歳の不徳浅学菲才の若輩者ですが、ご拝命をお受けした上は阿弥陀様のお導きに順ってお念仏の生活を送り、中田寺の護持発展に努めます」と決意を話している。私は中田に転居して56年、御霊神社と中田寺には愛着がある一人である。



中田寺の山門（この奥に本堂）

中田寺は江戸時代の初期、鎌倉郡中田村の領主、石巻康敬が開基となり慶長17年（1612年）、本譽良廓上人により創建された。ご本尊の阿弥陀如来は、平安時代の仏師定朝じょうちゆうの作と伝えられている。康敬は北條家の家臣として三代に仕え、評定衆をも務めている。天正18年（1590年）北條氏直の使節として秀吉に謁見した際、上洛緩怠の罪で捕らえられる。翌年小田原城落で北條家は滅亡。その後、徳川家康の温情で中田村に蟄居。文禄元年（1592年）采地印状を下附され幕府の旗本となる。当時の中田は全くの未開の山里で人家も少ない寒村だった。康敬はこの地に祀られていた御霊神社を鎮守として再興し慶長18年、村の発展に20余年尽力、80年の波乱に満ちた生涯を閉じている。

第十七世住職・香川法隆上人は嘉永6年（1853年）尾張の千代田村で次男として生まれた。11



戸田川の墓

歳で伊勢山（三重県）津の天然寺の住職・吉本瑞隆氏について得度し、法隆と号した。後に中田で教えを受けた奥津喬次郎が書き残している。

「上人は我が中田地区の住民に信仰を植え付けた恩人であり、経済復興の礎石を据えた大恩人である」。遡れば明治7年には住職と教員を兼務しており、明治二十八年には「中田協会」を設立、奥津喬次郎を中心に青年グループによる「中田農会」を結成させ、農作物の増産をはかっている。上人は大正十三年三月、七十五歳で遷化した。

郷土の力士、戸田川は享保20年（1735年）小山家（中田東）で生まれ名を戸田川鷲之助と言った。江戸時代は角界の名門、二代目「玉垣」の弟子で最初は立浪を名乗っていた。宝暦3年（1753年）、19歳で初めて江戸番付に登場、小結、関脇と言った位置でとったこともある。

力士の養成にも一見識を持ち、多くの力士を育てている。寛政七年九月、

惜しまれつつ他界した。中田寺本堂の左側に小山家先代の武八氏が昭和46年8月に再建した戸田川の墓がある。法名・実相院真誉高覚了本居士 （宮田貞夫）

◎用語解説 晋山（しんざん）：僧侶が新たに一寺の住職になること。

開基：寺院、宗派を創立すること。定朝：平安中期の法眼に位した仏師。得度；剃髪、染衣して仏門に入ること。

編集後記 ▼新型コロナウイルスの影響は、今や地球規模に拡大。私たちの地域への影響も大きく、イベントや集会の中止も相次ぐ。トイレットペーパーやお米までも。国民は冷静に！▼編集部には小島敏子さん（広町）が加わりました。更生保護や民生・児童委員など多年務める。精神障がい者への支援で会報「芽生え」を創刊など編集関係にも強い。よろしくお願ひします。 （宮）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jp へアクセス！！